

都市再生整備計画

「二本松城跡周辺地区」

事後評価シート

公表補足資料



令和6年4月

二本松市 都市計画課 公園緑地係

「二本松の菊人形」マスコットキャラクター
菊松くん

1. 事後評価制度の概要

事後評価とは

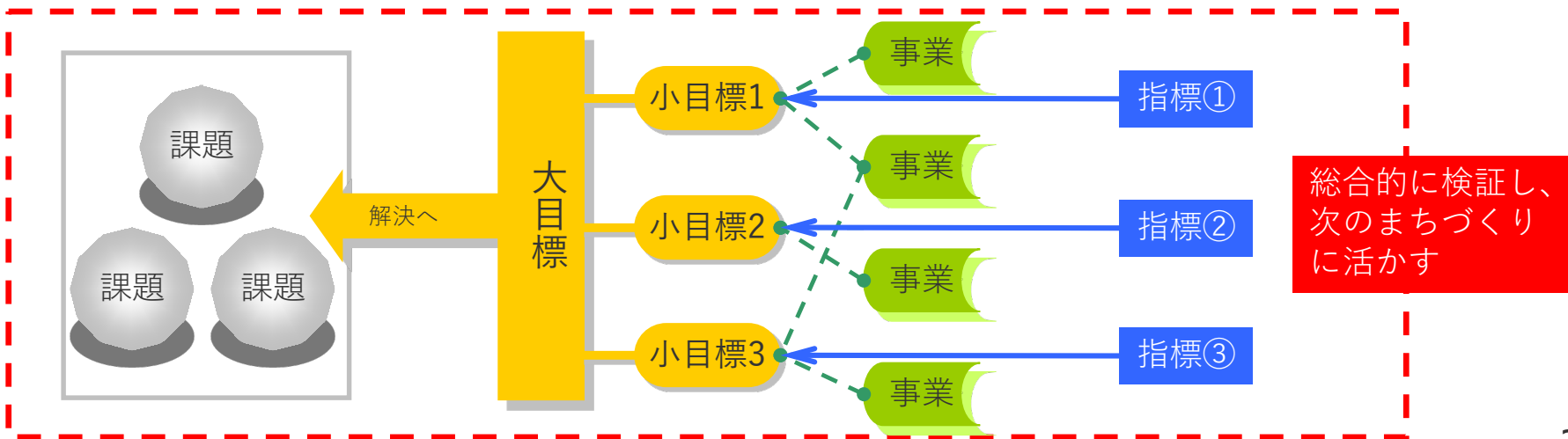
都市再生整備計画の事後評価

都市再生整備計画では、まず地区の【課題】を抽出し、その課題を解決するための【目標】を掲げ、その目標を達成するための【事業】を実施します。

その際、目標がどの程度達成できたかを数字で分かりやすく説明するために、【指標】（＝「目標を定量化する指標」）を設定します。

指標は、事業実施前と、事業の最終年度（もしくはその翌年度）に計測し、達成状況を確認します。その結果をもとに、事業効果等の検証や以降のまちづくり方針などを検討し、その結果を住民にわかりやすく説明するとともに、国に報告することが義務付けられています。

これが事後評価（事業効果分析）です。



都市再生整備計画のP D C Aサイクル

都市再生整備計画事業では、事業評価を事業の良否判断のみに終わらせず、今後のまちづくりに反映するなど、まちづくりの成果を高めるために、事業と評価を連動させたP D C Aサイクルの考え方を導入しています。



交付期間が終了すれば二本松城跡周辺地区のまちづくりは終了ということではなく、間断なくまちづくりを継続していくために、事後評価を実施しました。

事後評価は、次のまちづくりへのスタートという意味も持っています。

事後評価の実手順

1. 成果の評価

- ・事業の実施状況を確認
- ・数値目標の達成状況を確認

2. 実施過程の評価

- ・モニタリングや住民参加プロセスの実施状況を確認
- ・持続的なまちづくり体制の構築状況を確認

3. 効果発現要因の整理

- ・指標の計測結果と事業の関連性や、成功・失敗要因の整理
- ・今後の活用方策や改善の方針を検討・整理

4. 課題の変化の整理

- ・事業の実施により、地区の課題がどのように変化したかを整理
(改善されたか、未解決のものが残されているか、新たに発生した課題はあるか、等)

5. 今後のまちづくり方策の作成

- ・成果を持続するための方策
- ・課題を改善するための方策

6. 庁内関係課へ内容照会

- ・検討内容の精査・反映
令和6年1月

7. 事後評価原案の作成、公表

- ・寄せられた意見を精査、反映
2月1日～2月16日

8. 評価委員会による審議

- ・事後評価手続きが妥当かどうか等を第三者機関により客観的に審議
- ・寄せられた意見を精査、反映
2月21日

9. 事後評価シートの最終とりまとめ及び国への結果報告、公表

2. 都市再生整備計画

「二本松城跡周辺地区」について

(当地区のまちづくりの経緯について)

都市再生整備計画に記載したまちの課題

1. 二本松城跡の園路や駐車場等の安全性の確保と景観性の向上
2. 観光情報発信機能の整備と、市内の観光施設や中心商店街への送客機能の確保
3. 祭りやイベントの活性化に資するハード・ソフト支援
4. 歴史文化の体感等による市民の誇りの醸成と、観光振興による地域活性化
5. 障がいや年齢、多国籍にも対応できる誘客・移動手段の確保と環境整備

上記課題を解決するために設定した目標

【大目標】 二本松の歴史・文化・魅力を伝える 新たな交流拠点の整備と観光振興による地域の活性化

[小目標①] 観光交流拠点の整備による利便性と景観性の向上および賑わいの創出

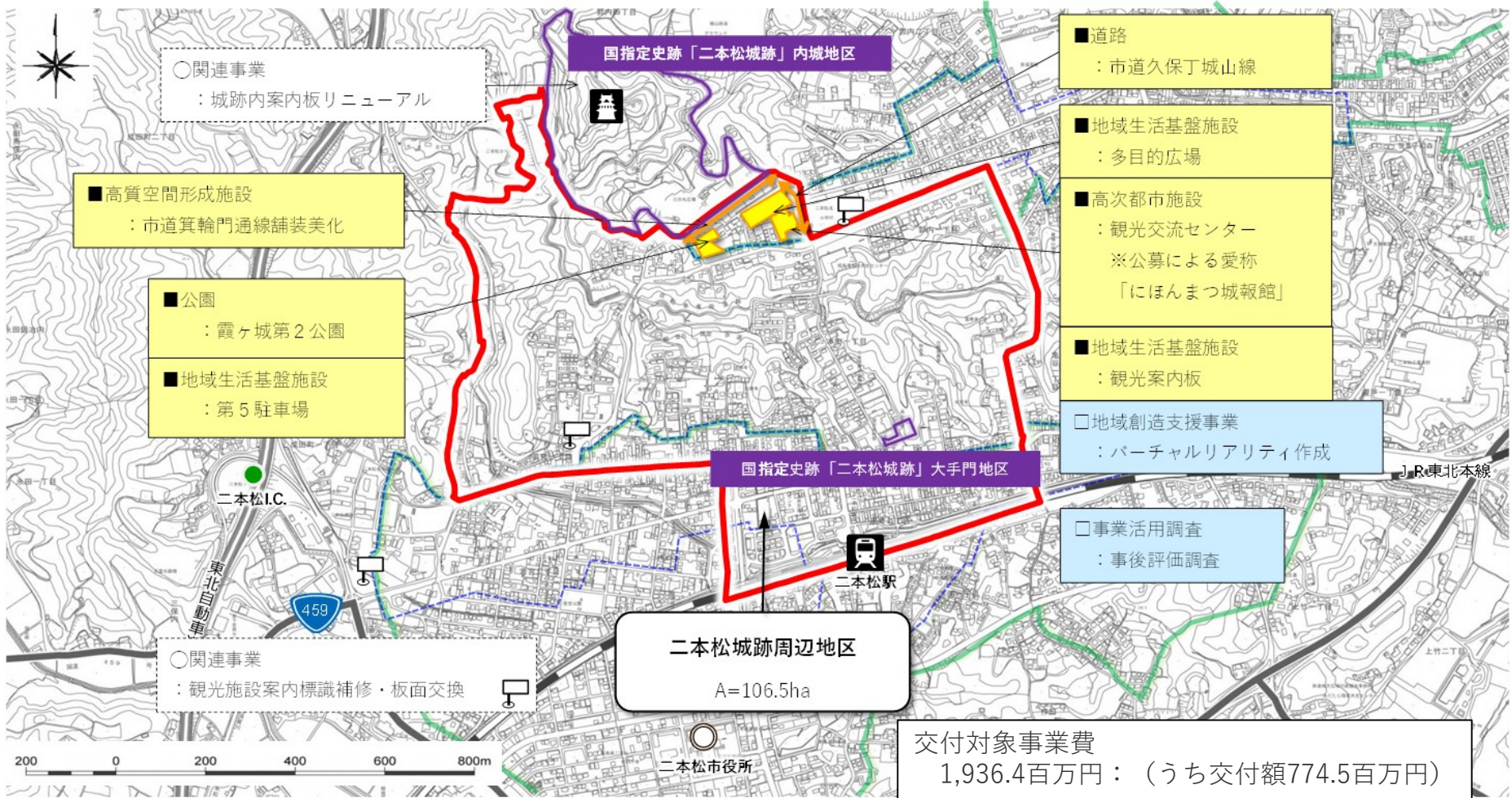
[小目標②] 歴史文化の伝承と体験による認知度の向上と市民の誇りの醸成

目標を定量化する指標

指標	従前値	目標値	備考
霞ヶ城入込客数	434,721人/年 (H27)	525,000人/年 (R4)	小目標 1 に対応
観光資源の認知度	22.2% (H28)	32.2% (R4)	小目標 2、1 に対応
二本松城跡周辺の平均滞在時間	51分 (H29)	80分 (R4)	小目標 1、2 に対応

事業概要①

事業箇所図



凡例	
	基幹事業
	提案事業
	関連事業
	居住誘導区域
	都市機能誘導区域

交付対象事業費
1,936.4百万円：（うち交付額774.5百万円）

↓ 2回の変更申請

2,126.5百万円：（うち交付額912百万円）

※一部、未完了の事業があるため、金額は現時点でのものとなります。

事業概要② にはんまつ城報館周辺 (1/2)

事業名	期間	事業内容	交付対象事業費
①市道久保丁城山線道路改良	R1～R6 (繰越)	L=195m,W=11.5m+2.3m：車道及び歩道の拡幅	107.6百万円
②にはんまつ城報館 (二本松市歴史観光施設) ※事業名：観光交流センター	H30～R3	延床A=1,749㎡、駐車場A=2,325㎡ 観光交流センター：平屋一部2階建、 駐車場：観光バス2台、一般車51台程度	1,779.7百万円
③観光案内板	R3	N=1基、板面式	0.9百万円
④バーチャルリアリティ (VR) 作成	H30・ R1～R3	バーチャルリアリティソフト作成	19.4百万円

①市道久保丁城山線道路改良



④バーチャルリアリティ (VR) 作成



③観光案内板



事業概要③ にほんまつ城報館周辺 (2/2)

②にほんまつ城報館 (二本松市歴史観光施設)

施行前 (平成28年)



施行後 (令和5年)



事業概要④

多目的広場周辺

事業名	期間	事業内容	交付対象事業費
⑤多目的広場	H30～R5	A = 3,894㎡ 路盤工、ブロック舗装、植栽（生垣、低木、芝）、給水施設等	123.7百万円
⑥市道箕輪門通線舗装美化	H30・R4～R5	A=2,095㎡ 舗装改良（半たわみ性舗装）、フットライト整備（N=50基）等	72.9百万円

⑤多目的広場

施行前（平成28年）



施行後（令和5年）



⑥市道箕輪門通線舗装美化

施行前（平成28年）



施行後（令和5年）



事業概要⑤

第5駐車場周辺、事業効果の計測

事業名	期間	事業内容	交付対象事業費
⑦霞ヶ城第2公園	H30・R5	A=482㎡ 植栽、張芝等 二本松菊栄会事務所移設	13.6百万円
⑧第5駐車場	H30・R5	A = 2,964㎡ 砕石舗装、側溝整備、植栽等	5.9百万円

⑦霞ヶ城第2公園



⑧第5駐車場



事業名	期間	事業内容	交付対象事業費
⑨事後評価調査	R5	事後評価調査	2.8百万円

⑨事後評価調査



3. 指標の達成状況

指標の計測結果① 指標 1

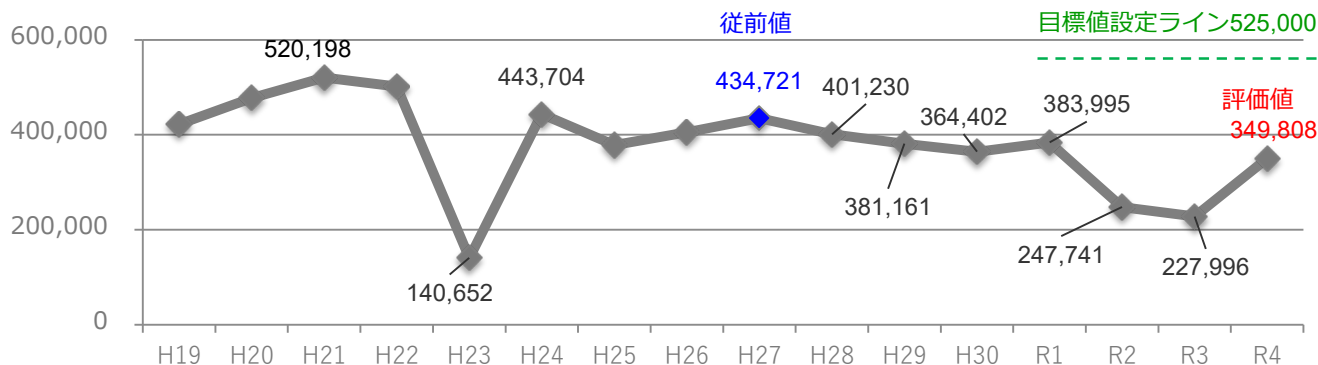
指標 1：霞ヶ城入込客数

未達成



従前値	目標値	事後評価	達成度	計測根拠
434,721 人/年 (H27)	525,000 人/年 (R4)	349,808 人/年 確定値	△	霞ヶ城公園の入込客数（根拠資料：「福島県観光入込状況」）

→目標値を達成しなかったため、「その他の数値指標1」を設定して、事業効果を補完説明しました。



コロナ禍の甚大な影響により目標値には達しませんでした。事業の効果もあって近年回復傾向を見せているため、達成度を「△」としました。

→その他の数値指標 1 を設定し、成果の補完説明をしました。

指標の計測結果② 指標 2

指標 2 : 観光資源の認知度

欠測



従前値	目標値	事後評価	達成度	計測根拠
22.2% (H28)	32.2% (R4)	— (欠測)	—	福島県外在住者に対するウェブアンケートのうち、「二本松城」と「菊人形」の認知度の平均値（計測主体：（一社）にほんまつDMO）
		確定値		

→指標を計測できなかったため、「その他の数値指標2」を設定して、事業効果を補完説明しました。

にほんまつDMOが令和4年3月に実施した「二本松市観光動態調査（アンケート調査）」において平成28年調査時と同様の設問が含まれなかったことから、本指標の評価値は欠測としました。このことから、今後はにほんまつDMOとの連携や連絡体制を強化し、情報などの共有と有効利用を図るという改善方針を定めました。

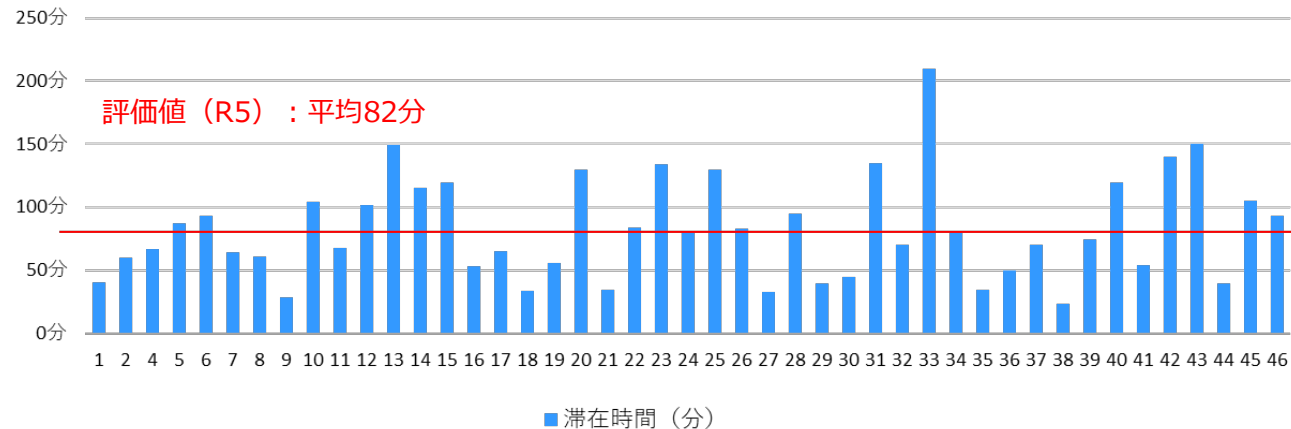
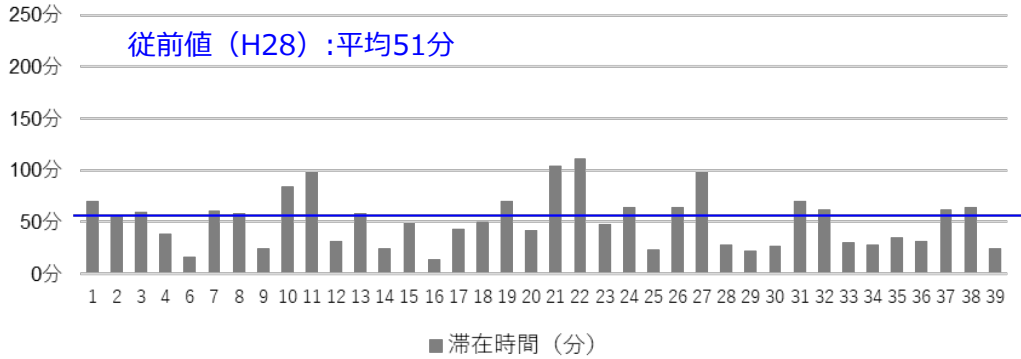
指標の計測結果③ 指標3

指標3：二本松城跡周辺の平均滞在時間

達成！



従前値	目標値	事後評価	達成度	計測根拠
51分 (H29)	80分 (R4)	82分 確定値	○	霞ヶ城公園の来訪者の平均滞在時間（GPSを渡して計測）



目標値を達成したため、達成度は「○」としました。

指標の計測結果④

その他の数値指標 1 の設定と評価結果

その他の数値指標とは

当初設定した指標以外で、効果の発現要因を検証することができる指標のことです。特に目標値に達しなかった指標については、補完説明するために設定が必要とされています。

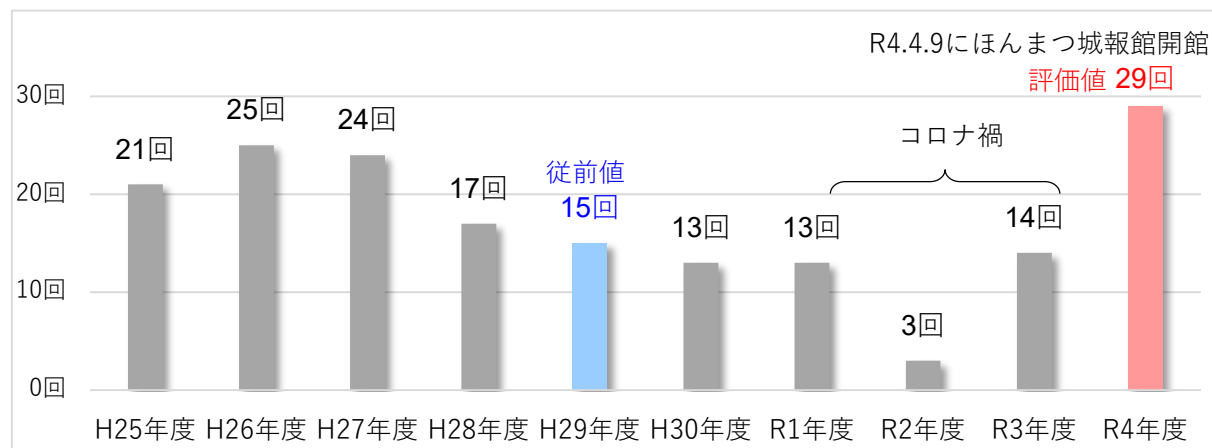
その他の数値指標 1：霞ヶ城公園利用申込件数

※指標 1 を補完

増加！



従前値	評価値	計測方法
15 件/年 (H29)	29 件/年 (H29)	霞ヶ城公園の利用申請件数（市集計資料より）



※「その他の数値指標」は従前値に対する評価値の増減で事業効果を説明するものであるため、目標値の設定を必要としません。

その他の数値指標2：「霞ヶ城」の県内順位

※指標2を補完

上昇!



「霞ヶ城」の入り込み客数で、「歴史・文化」カテゴリにおける県内順位

従前値	評価値	計測方法
8位 (H29)	6位 (R4)	「霞ヶ城」の入込客数について、「歴史・文化」カテゴリにおける県内順位を把握 (根拠資料：「福島県観光入込状況」)

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
順位	8位	8位	8位	8位	8位	8位	8位	6位

(参考) 順位トップ10

	平成29年度	令和4年度
1位	伊佐須美神社	伊佐須美神社
2位	喜多方市街	喜多方市街
3位	大内宿	大内宿
4位	鶴ヶ城天守閣	アクアマリンふくしま
5位	アクアマリンふくしま	福満虚空蔵菩薩圓藏寺
6位	福満虚空蔵菩薩圓藏寺	霞ヶ城
7位	会津若松市街	会津若松市街
8位	霞ヶ城	鶴ヶ城天守閣
9位	麟閣	麟閣
10位	三春の里田園生活館	三春の里田園生活館

定量的に表現できない定性的な効果発現状況

当初設定した指標以外においても、事業を行ったことにより、予期していなかった効果が出ている可能性があります。事業の効果をよりの確に把握するには、このような状況も収集しておくことが有益です。

- 各種事業により当地区の景観が向上したことで、その周辺の建築物等の景観改善なども図られつつあるなど、**周辺住民等の景観意識の向上に寄与**している。

- にほんまつDMOによる甲冑着付け体験や石垣マグネット、城カード、御城印などオリジナルグッズの作成・販売など、**様々な観光メニューの展開に寄与**している。

- にほんまつ城報館で映像などにより歴史文化をわかりやすく紹介することで、**市民の郷土の歴史への関心と理解を向上させ、その誇りの醸成に寄与**している。

- また、マルシェやワークショップなどがにほんまつ城報館を会場に実施され始めるなど、**当地区が市民活動の新たな拠点**としても活用されている。

- にほんまつ城報館に「まちナビカード」を置くことで、**市内周遊のきっかけづくり及び地域の活性化に寄与**している。

- 城跡前周辺の道路を整備することで、来訪者及び地域住民の**徒歩移動に係る安全確保に寄与**している。

- にほんまつ城報館の**口コミは上々**であり、歴史の体感の他、城跡散策後の休憩場所としても活用されるなど、**来訪者の利便性の向上にも寄与**している。



にほんまつDMOのホームページより

4. 今後のまちづくり方策

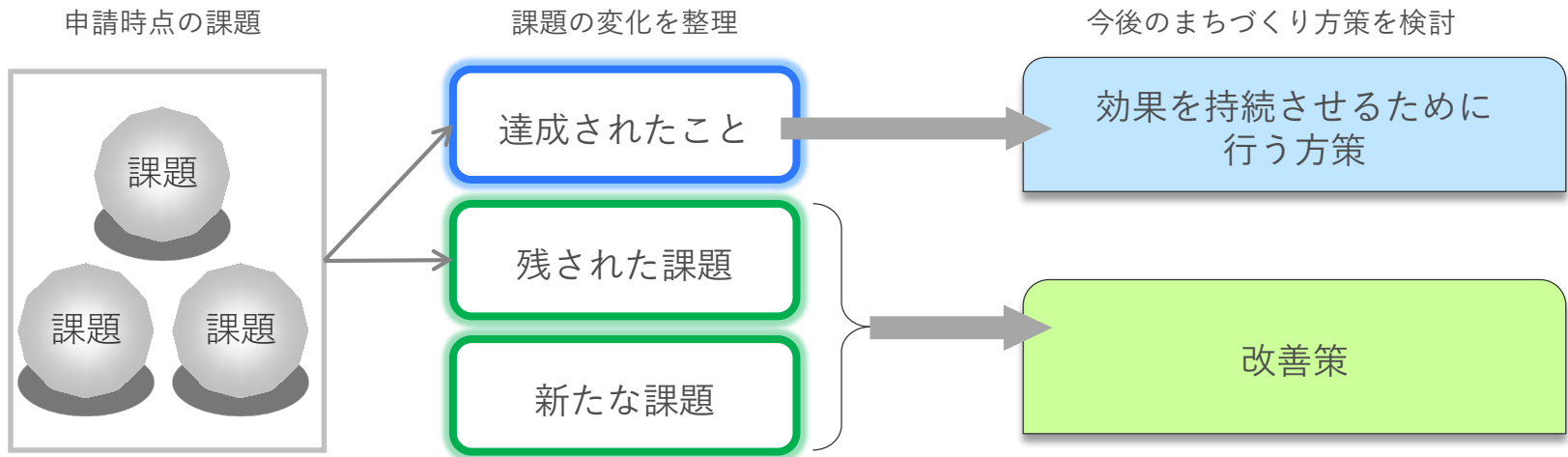
今後のまちづくり方策①

今後のまちづくり方策の検討について

都市再生整備計画の効果の持続を図るため、交付終了後におけるまちづくり方策についても検討し、実施を図ることが事後評価の特徴のひとつです。

まず、当該地区の当初の課題がどのように変化したかを検証します。

次に、事業全体を俯瞰して、まちに及ぼした効果の持続・活用、未解決の課題の改善のあり方等を検討し、「今後のまちづくり方策」として整理します。



今後のまちづくり方策②

事業前の地区の課題（再掲）

1. 二本松城跡の園路や駐車場等の安全性の確保と景観性の向上
2. 観光情報発信機能の整備と、市内の観光施設や中心商店街への送客機能の確保
3. 祭りやイベントの活性化に資するハード・ソフト支援
4. 歴史文化の体感等による市民の誇りの醸成と、観光振興による地域活性化
5. 障がいや年齢、多国籍にも対応できる誘客・移動手段の確保と環境整備

事業実施による課題の解決・変化

今後のまちづくり方策

【課題の解決による効果の継続】

- ・ 地区内で創出・回復した賑わいを継続する
- ・ 二本松城跡周辺地区としてふさわしい景観をさらに向上する
- ・ 繰り返し来訪したくなるような仕掛けや仕組みを検討、強化する

【残された課題の改善】

- ・ イベント時等の地区内施設や駐車場利用の連携を強化する
- ・ 雨天時等における、当地区と市内観光施設や商店街への送客機能を確保する
- ・ 二本松市の魅力の発信を更に強化する
- ・ 施設間や団体間の連携を更に強化する